

# (郷土) 山中小学校 3年 とび出せ！ぼくらは山中ちびっこはかせ

4月～2月(60時間)

## 1 ねらい(単元目標・めざす子ども像)

- ・山中学区の歴史や自然について、自分なりの思いや願いをもって調べることを通して、学区への愛着を深めることができる。
- ・自分の調べたい課題を見つけ、聞き取り調査やアンケートなど課題解決のための方法を考えることができる。
- ・調べたことを写真や絵・図を入れて分かりやすくまとめ、発表することができる。

## 2 実践の概要

### (1) 自慢できる山中の名所を見つけよう

1学期は、山中学区にある自然や歴史に興味をもたせるつために一つのところに絞らず、社会科の「学区を調べよう」と関連させながら学区探検に出かけた。普段は通りすぎるだけの景色が、ゆっくり見ることによって別の角度から見ることができ、子どもたちも学区に興味をもつことができた。特に、山中八幡宮は「大クスノキ」や、「鳩が窟」など自然と歴史の残る場所であり、子どもたちのお気に入りとなった。探検や授業後に書いている振り返りカード「スマイルいっぱいノート」からも、「また行きたい」と書く子が多かった。

### (2) 山中八幡宮のひみつを探ろう



本殿を調べる子どもたち

1学期は、本殿改修のため工事用シートがかけられていた。2学期の半ば10月頃に、シートが外され、久しぶりに本殿の様子を見ることができた。新しくなった本殿に興味をもった子どもたちであったので、本殿のひみつから山中八幡宮のひみつを探ることにした。一人一人が興味をもったことを個別に調べていった。本殿には、鳩の絵が多く描かれている。これは、昔徳川家康が敵から逃げてきて隠れた場所である「鳩が窟」に由来すること

である。鳩の絵から、「鳩が窟」につながり、そこから家康がさした矢から竹が生えたという「矢竹」へと、子どもたちの学習がつながっていった。一連の学習をする中で、徳川家康に興味をもった子どもは家康の生い立ちを調べる子どもも出てきた。また、本殿にかかれていたマーク(家紋)に興味をもった子どもは、マークが一体何を表しているのかを本で確かめたり、自分の祖父母に教えてもらったりして調べ、学習を進めていった。調べて分かったことを、「山中八幡宮のひみつパンフレット」にまとめ、クラスの仲間に発表をした。



疑問に思ったことを矢印にしてまとめたパンフレット

## 3 実践を振り返って

「先生、家康行列ののぼりに山中八幡宮と同じ家紋があったよ」最初は、「家紋」という言葉さえも知らずにマークという言葉を使っていた子たちが最近では、こんなことを言うようになった。またある子どもは、「徳川家康は、山中の他にどんなところを通っていったのだろう。たどってみたい。」と言っている。ただの神社だった山中八幡宮が、徳川家康という人物を調べることによって、子どもたちの探究心を掘り起こす魅力的な場所へと変わっていった。山中八幡宮にかぎらず自分たちの住む山中学区の歴史や自然にふれ、「知りたいこと」を自分自身で調べる力をつけられるようこれからも活動させていきたい。